

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00991

研究課題名（和文）SDGs第4目標達成に貢献する教育のグローバルガバナンスの理論化と実証

研究課題名（英文）Theorizing the Global Governance of Education for the Achievement of SDG 4

研究代表者

黒田 一雄（Kuroda, Kazuo）

早稲田大学・国際大学院（アジア太平洋研究科）・教授

研究者番号：70294600

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、教育をめぐるグローバルガバナンスを理論的・実証的に解明することによって「持続可能な開発目標（SDGs）第4目標（質の高い教育）」の達成に貢献することを目的とした。本研究では、教育に関する国際機関や各国政府の政策文書や、国際会議資料・国際的教育統計データ等を収集して、国際教育政策データアーカイブを作成し、日本・海外の研究者が共同利用しながら、国際会議や国際ワークショップの開催を通じて議論をし、研究論文をまとめた。また、教育のグローバルガバナンスの展開の中での日本の国際教育協力を歴史的に研究した。本研究の研究成果は、Springerや東京大学出版会から研究書として出版された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歴史的に教育政策は国民国家が主体となって立案・実施がなされてきた。また教育研究も、その前提に国民国家が存在した。しかし、現代ではSDG第4目標（質の高い教育）のように、国際社会としての政策的枠組みである教育のグローバルガバナンスが、ローカルな教育政策・教育実践に大きな影響力を持つようになっている。本研究は、形成されつつある教育のグローバルガバナンスに対して、理論的・実証的にアプローチすることにより、国民国家を超えた教育に対する新しい研究視角を生み出すとともに、SDG第4目標の達成に対しても貢献する学知を生み出した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to contribute to the achievement of Goal 4 (Quality Education) of the Sustainable Development Goals (SDGs) by providing theoretical and empirical insights into the global governance of education. In this study, we created an international education policy data archive by collecting policy documents from international organizations and national governments on the global governance of education, international conference materials, international education statistical data, and so on. Researchers in Japan and overseas jointly used the archive to hold international conferences and workshops to discuss and compile research papers. We also conducted historical research on Japan's international education cooperation in the context of the emerging global governance of education. The research results of this study were published as research books by Springer and the University of Tokyo Press.

研究分野：比較国際教育学

キーワード：SDGs 国際教育協力 ユネスコ グローバルガバナンス 国際教育政策 比較国際教育学 高等教育の国際化 インクルーシブ教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界には未だ8億人弱の成人非識字者と約6000万人の不就学児童が存在しているとされる。(UNESCO 2016)。また、社会経済のグローバル化は、教育の内容や教育機会のあり方にグローバルな変容を迫っている。従来、教育は国民国家の枠組みで、そのあり方が議論され、政策が形成され、実践がなされてきたが、国際社会は、このような教育の深刻な世界的現状をグローバルイシューとして認識し、協調・協力して解決していくためのグローバルガバナンスの枠組みを形成する必要があることを、様々な国際協議の場で確認してきた。現在に続くグローバルイシューとしての教育に関する枠組みは、1990年にタイのジョムティエンにおいて、ユネスコ・世界銀行・ユニセフ・国連開発計画によって共催された国際会議によって提示された「万人のための教育 (Education for All, EFA) に端を発したものであった。2000年にユネスコによって開催された「世界教育フォーラム」で採択された「ダカール行動枠組み」や国連「ミレニアム開発目標 (MDGs)」を経て、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」にも、EFAを中心とする、教育をグローバルイシューとして位置づけた国際社会の課題解決の枠組みが組み込まれている。グローバルに取り組むべき課題は、教育へのアクセスだけではない。例えば就学していたとしても、学校教育の質や教育内容の妥当性・学習環境のあり方・就労との接続・社会との連関等々に、世界共通の深刻な課題があるとされることが、グローバルレベルで認識されてきている。EFAだけでなく、「21世紀型学力」や「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development, ESD)」、「インクルーシブ教育」、「地球市民教育」、「高等教育の国際化」等々の、教育に関する様々な概念や課題が国際社会に提示され、それぞれにその達成のためのグローバルな枠組みが構築され、その多くがSDGsの中にも取り込まれている。

2. 研究の目的

環境や感染症対策のような典型的なグローバルイシューに対する国際社会のグローバルガバナンスは、社会諸科学の分析ツールを用いる形で、様々な試行錯誤がなされてきた。しかし、教育分野においては、未だナショナルレベルの分析が中心であり、国際開放体系下の政策枠組みを意識した研究は多くは実施されておらず、この分野の構造的な課題となっている。教育分野において、ナショナルレベルでの教育の国際化過程や、教育援助・国際教育交流に関する研究・調査は豊富に存在する。しかし、グローバル・アプローチの教育政策決定過程に関する実証的研究はJohns(2005)等を例外として多くは存在しない。本研究の目的は、グローバルな教育活動に対する多様な政策的立場を統合し、分析フレームワークを提示することと、「国民国家の枠組みを超えた教育のグローバルガバナンスの体制をいかに構築するか」という研究課題に答えることにより、SDG第4目標の達成に貢献することであった。

3. 研究の方法

本研究では、SDG第4目標(教育目標)から、いくつかの教育課題を選び出し、その研究対象とし、(1)その教育課題に関係する国際機関や国際会議の政策文書や会議資料の収集と包括的・歴史的把握、(2)教育課題ごとの比較教育学論文のメタ分析、(3)ユネスコ統計研究所・PISA等のグローバルな二次データの収集を行い、事例的な現地調査及び政策担当官への質問紙・聞き取り調査を実施した。そして、これらをデータベース化して国際教育政策データアー

カイクを作成し、日本・海外の研究者が共同利用しながら、国際会議や既存の国際会議でのワークショップ開催を通じて議論をし、研究論文にまとめていくという形をとった。

全期間を通じて、国際教育政策データアーカイブの作成を進めるとともに、SDGsにおける高等教育国際化やインクルーシブ教育の推進に焦点を当て、ユネスコアジア太平洋教育事務局(バンコク)やブリュッセル自由大学ヨーロッパ研究所の協力のもと、共同研究フォーラムを開催した。ただし、コロナ禍においては、この多くがオンラインとなった。さらに、SDG第4目標のようなグローバルガバナンスが進展する中での国際教育協力の事例として日本をとりあげ、歴史的な検討を行った。

4. 研究成果

全期間を通じて次の研究成果があった。

(1) 日本比較教育学会国際交流委員会のプロジェクトとして本研究を位置づけ、国際教育政策データアーカイブの作成準備を進め、「教育のグローバルガバナンスデータアーカイブ」を作成し、その一部をリンク集として日本比較教育学会のWebページに掲載した。さらに、このデータアーカイブは、世界比較教育学会連合(World Council of Comparative Education Societies)にも提供された。

(2) SDGsにおける高等教育の役割に焦点を当て、ユネスコアジア太平洋教育事務局及び東京大学とともに共同のワークショップをバンコクで開催した。また、ブリュッセル自由大学ヨーロッパ研究所の協力のもと、SDGsと教育に関する会合をブリュッセルで開催した。コロナ禍においては、このようなワークショップをオンライン化して開催した。その研究成果をSpringer社から出版した。

この一連の研究では、高等教育の多層的グローバルガバナンスと国際化について、主にその理念・目的を理論的に説明・議論することを行った。その最も重要な主張は、気候変動問題の深刻化・感染症危機・頻発する紛争・拡大する経済格差等の地球規模課題に対して、高等教育はグローバルガバナンスを進化・進展させ、国際化を推進することによって、その課題解決に大きな役割を果たしうるということであった。特に、平和の維持・達成は、高等教育のグローバルガバナンスと国際化が、歴史的に期待されてきた貢献の方向性であり、現代的な状況の中でも、高等教育国際化がデファクトで進展した現代だからこそ、長期的・構造的な貢献可能性を有していることが指摘された。

さらに、高等教育のグローバルガバナンスと同時に進展するリージョナルガバナンスは、世界の高等教育の多様性を担保しながら、国際的な協働の枠組みを形成していくために有用な多層性を有している。また、次々に生み出されるリージョナルガバナンスの枠組み同士でも、多層的な展開がなされている。そのような多層性が、混沌とはならず、多様性を内包しつつも、枠組み間で機能する秩序を形成していくことの必要性が議論された。

また同時に、公的な正当性(Legitimacy)を有しない、民間会社による大学ランキングのような高等教育グローバルガバナンスの形態が大きな政治的影響力を有するようになっている状況の中で、その基準の作成やプロセスに大学の有する国際公共財としての価値、国際規範への適合、地球規模課題の解決への貢献度等を反映させる努力をすべきことも指摘された。

(3) 教育のグローバルガバナンスにつながる国際教育協力の事例として日本を取り上げ、その歴史に関する資料収集・分析を行った。その研究成果を、東京大学出版会及びSpringer社が

ら出版した。

そこでは、国際関係論におけるコンストラクティビズムの考え方や、グローバルガバナンス論の基を作った国際レジーム論が、国際規範等の価値や理念が教育のグローバルガバナンスを規定するとしたうえで、国際教育協力において、この30年間で最も影響力のあった国際規範である「Education for All(EFA)」が発展途上国における教育政策と援助供与国の国際教育協力政策に絶大なインパクトを与えたこと、このようなグローバルガバナンスの在り方が各国の政策に大きく影響する時代において重要なのは、国際社会における教育分野における「規範起業家」の存在であったことを指摘した。日本は、2000年代「持続可能な開発のための教育(ESD)」を提唱し、国連「ESDの10年」を支援する外交努力を続け、その最終年の国際会議をホストし、国連におけるポスト2015の枠組み形成においてもESDの考え方を内包するSDG第4目標第7ターゲットとして結実させたという実績を有しており、日本の国際教育協力の未来を構想するとき、日本がグローバルな「規範起業家」としてのこのような実績と経験を有することは、その重要な礎となると論じた。

その上で、教育のグローバルガバナンスの形成によって、国際教育協力のあり方が垂直的なものから水平的なものになっていこうとする現在、その理念や規範の形成に貢献することの意義は大きく、日本の国際教育協力がその政策形成や表明によって目指すべきは、単に国内政策を方向づけるだけでなく、国際社会への国際規範の提示という貢献であることと、国際社会のニーズに沿った新たな教育の国際規範や教育のコンテンツ、そしてグローバル・リージョナルな教育協力・連携のプラットフォーム、集約された日本・アジアの教育経験等を、国際的公共財として世界に提供することだと結論した。

<参考文献>

Nobuko Kayashima, Kazuo Kuroda and Yuto Kitamura eds. (2022) *Japan's International Cooperation in Education - History and prospects*, Springer

Shujiro Urata, Kazuo Kuroda and Yoshiko Tonegawa eds. (2023) *Sustainable Development Disciplines for Humanity*, Springer

黒田一雄(2023)『国際教育協力の系譜 - 越境する理念・政策・実践』東京大学出版会

黒田一雄(2024)「高等教育の多層的グローバルガバナンスと国際化の理念・理論的検討」『名古屋高等教育研究』第24号 名古屋大学高等教育研究センター 87 - 107 頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 黒田一雄	4. 巻 638
2. 論文標題 ウィズコロナ時代における国際高等教育の新たな展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 14-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 米原あき	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 SDG教育目標にみる理念志向ターゲットの評価に関する一考察：測定可能性（measurability）から評価可能性（evaluability）へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本評価研究	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川口純、丹羽勇人	4. 巻 第29巻2号
2. 論文標題 教育格差の中にある格差： マラウイの初等教育への就学実態を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 黒田 一雄	4. 巻 13
2. 論文標題 インクルーシブ教育のグローバルガバナンスと特別支援教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 3~11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50919/africaeducation.13.0_3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田一雄	4. 巻 第一〇四號
2. 論文標題 日本の『アジア主義』地域構想と国際教育協力	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 155 - 180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田一雄	4. 巻 第24号
2. 論文標題 高等教育の多層的グローバルガバナンスと国際化の理念・理論的検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 87-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kuroda	4. 巻 Vol. 64
2. 論文標題 Education for Peace; Constant Efforts of International Society and Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Kobe City University of Foreign Studies Journal of Research Institute	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 23件)

1. 発表者名 Kazuo Kuroda and Kyuwon Kang
2. 発表標題 Prospecting Asian Regional Cooperation in Higher Education
3. 学会等名 The PKU Waseda Joint Workshop 2021 organized by Peking University and Waseda University (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Comparative and International Education
3. 学会等名 The 16th International Conference on Humanities and Social Sciences organized by Khon Kaen University, Thailand Online (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Asian Comparative Education Crossing Borders
3. 学会等名 WCCES Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Asian Regional Cooperation of Higher Education
3. 学会等名 Xiamen University Humanities and Social Sciences International Forum (Xiamen University 's Centennial Event) (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 UNESCO's Futures of Education global report: Reimagining our futures together: a new social contract for education"
3. 学会等名 The 4th World Congress of Comparative Education Society (WCCES) Symposium, Online (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Maruyama
2. 発表標題 Education in & for Sustainable Futures: An international field visit program encourages self-transformation through encounters with others
3. 学会等名 11th World Environmental Education Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Maruyama
2. 発表標題 A design for an interdisciplinary approach and holistic competency in a Japanese university
3. 学会等名 Comparative Education Society of Asia (CESA) 12th Biennial Conference Kathmandu 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Maruyama
2. 発表標題 " Deep ESD " in a University: Towards Learner ' s Transformation
3. 学会等名 4th WCCES Symposium (Cornell University - UNESCO IBE) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 International Higher Education in the Post- Corona World
3. 学会等名 RECSIE Special Webinar Series: What can we do? International education during the Covid-19 pandemic (Online) Series V : Covid-19 and Paradigm Shift of International Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒田一雄
2. 発表標題 インクルージョンと教育
3. 学会等名 広島大学教育開発国際協力研究センター (CICE)・国際協力機構 (JICA) 教育協力NGOネットワーク (JNNE)共催Global Education Monitoring Report 2020ローンチ ウェビナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Regional Governance and Cooperation of Higher Education in Northeast and Southeast Asia
3. 学会等名 2020 Online Forum on Education Cooperation in South & Southeast Asia organized by Yunnan Provincial Department of Education, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Opportunities and Challenges for International Affairs Schools in Asia - How is international affairs education changing in the region, especially during the pandemic?
3. 学会等名 Association of Professional Schools of International Affairs (APSIA) Deans and Directors Meeting (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Regional Report: Internationalization of Japanese Higher Education in the Post- COVID19 Pandemic Era
3. 学会等名 Asia-Pacific Association for International Education (APAIE) 2021 Virtual Event (Annual Conference) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideki Maruyama
2. 発表標題 Lifelong Learning for Sustainable Futures in Japan
3. 学会等名 (Online) Decade towards 2030: Experiences and Prospects of SDG4-Education 2030 organized by Graduate School of Education, Tohoku University (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山英樹
2. 発表標題 教育学からみる宗教的多様性と教育ニーズ
3. 学会等名 (Online) 日本宗教学会第79回学術大会パネル「宗教と教育における多様性：新たな共生への視点を考える」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山英樹
2. 発表標題 コメント・論点整理：主に比較教育学の視点から
3. 学会等名 (Online) 日本教育学会連続オンライン座談会第4回「世界から見たポスト/ウィズ・コロナの教育展望」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Internationalization and Formulation of Technological Hubs for Regional Economic Development
3. 学会等名 The 2nd Guangdong-Hong Kong-Macau Great Bay Area International Higher Education Forum organized by San Yat-sen University, Guangdong, China. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Globalization and the Development of Global Governance of Education: Historical Development and Prospects for the Future
3. 学会等名 International Conference on Re-imagining International Educational and Cultural Relations for Sustainable Development ” organized by National Chinan University, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Maruyama
2. 発表標題 Well-being for Sustainable Futures: from Nonformal Education and Individual Learning Opportunity
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Conference: 10th Anniversary (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miki Sugimura
2. 発表標題 Migration and Displaced People ' s Education: Comparative Perspectives
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Conference: 10th Anniversary (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Inclusive Education as a Quality Strategy for Achieving SDGs Goal 4
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Conference: 10th Anniversary (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Cross-border Collaborative Degree Programs in Asia- Implications from JICA RI conducted survey for 1000 programs
3. 学会等名 Asia Pacific Association for International Education (APAIE) Annual Conference and Exhibition in Kuala Lumpur (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Global and Regional Governance of Education: A Case of International Diffusion of “ Inclusion ” Concept
3. 学会等名 EU Japan Forum 2019 at Institut d'etudes Europeennes, Universite Libre de Bruxelles (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Regional Governance and Cooperation of Higher Education in Asia
3. 学会等名 Inauguration Ceremony of the University Consortium of 21st Century Maritime Silk Road and University President's Forum at Xiamen University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田一雄
2. 発表標題 インクルーシブ教育とグローバルガバナンス
3. 学会等名 アフリカ教育学会第29回大会公開特別セッション「障害のある子どもとインクルーシブ教育受容 - 国際比較の視点から - 」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Reverse Gender Gap in Higher Education: An International Comparison of Southeast Asia
3. 学会等名 World Congress of Comparative Education Societies (WCCES) Symposium-JCES Session (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda
2. 発表標題 Improving Education by Inclusion?
3. 学会等名 Comparative and International Education Society Annual Conference at Grand Hyatt Hotel, Washington DC (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Kuroda and Lauren Nakasato
2. 発表標題 National, regional and global identity formation in higher education student mobility: the case of Japan
3. 学会等名 EU Japan Forum organized by Institut d'etudes Europeennes, Universite Libre de Bruxelles (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 荻巣崇世, 橋本憲幸, 川口純編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 256
3. 書名 国際教育開発への挑戦 - これからの教育・社会・理論 -	

1. 著者名 萱島 信子、黒田 一雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 448
3. 書名 日本の国際教育協力	

1. 著者名 Maruyama, Hideki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 172
3. 書名 Cross-Bordering Dynamics in Education and Lifelong Learning: A Perspective from NonFormal Education	

1. 著者名 Nobuko Kayashima, Kazuo Kuroda and Yuto Kitamura eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 385
3. 書名 Japan's International Cooperation in Education; History and prospects	

1. 著者名 Shujiro Urata, Kazuo Kuroda and Yoshiko Tonegawa eds.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 187
3. 書名 Sustainable Development Disciplines for Humanity	

1. 著者名 黒田一雄	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 国際教育協力の系譜	

1. 著者名 川口純編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 340
3. 書名 SDGs時代のインクルーシブ教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所 黒田一雄 客員研究員 https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/experts/kuroda-kazuo.html 国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所 黒田一雄 客員研究員 https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/experts/kuroda-kazuo.html 国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所 黒田一雄 客員研究員 https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/experts/kuroda-kazuo.html 国際協力機構 緒方貞子平和開発研究所 黒田一雄 客員研究員 https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/experts/kuroda-kazuo.html</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	丸山 英樹 (Maruyama Hideki) (10353377)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	米原 あき (Yonehara Aki) (40633847)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	
研究分担者	杉村 美紀 (Sugimura Miki) (60365674)	上智大学・総合人間科学部・教授 (32621)	
研究分担者	KARTIKA DIANA (Kartika Diana) (60794831)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	川口 純 (Kawaguchi Jun) (90733329)	慶應義塾大学・文学部・准教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Fifth Stakeholders' Meeting on Internationalization of Higher Education in Asia and the Pacific: Challenging Knowledge Diplomacy to Achieve Our Common Agenda	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Waseda International Workshop on Higher Education and SDGs (Global Governance)	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関